

# 平成25年度 第3回 鶴岡地域審議会

## 次 第

日 時 平成25年10月8日 (火)  
午後1時30分～

場 所 鶴岡市総合保健福祉センター  
にこ・ふる 3階大会議室

1 開 会

2 あいさつ

3 分科会

(1) 各協議テーマの具体的な解決策・施策について

4 全体会

(1) 各分科会での協議内容報告

(2) 提言書に向けて

(3) その他

5 その他

6 閉 会

# 鶴岡地域審議会委員名簿

平成24年7月1日～平成26年6月30日

	所属団体名等	氏名	備考
1	鶴岡市町内会連合会会長	山田 登	
2	鶴岡市自治振興会連絡協議会会長	本間 仁一	
3	鶴岡市農業協同組合代表理事組合長	今野 毅	
4	出羽庄内森林組合理事	土岐 純一	
5	山形県漁業協同組合常務理事	田村 勇次	
6	鶴岡商工会議所会頭	早坂 剛	
7	鶴岡市観光連盟会長	三浦 惇	
8	鶴岡市社会福祉協議会理事	茅野 進	
9	鶴岡市民生児童委員協議会連合会会長	竹内 峰子	
10	鶴岡市PTA連合会副会長	横山 真二	
11	NPO法人鶴岡市体育協会会長	稲泉 眞彦	
12	鶴岡市老人クラブ連合会会長	後藤 輝夫	
13	鶴岡市婦人会連合会会長	齋藤 春子	
14	公益社団法人鶴岡青年会議所副理事長	今間 智寛	
15	鶴岡市消防団団長	伊藤 俊昭	
16	学識経験者	竹田 理英	
17	学識経験者	丸山 絢子	
18	学識経験者	菅 隆	
19	学識経験者	奥山 春名	
20	学識経験者	菅原 衛	

## 鶴岡地域審議会 分科会名簿

### 審議会委員

所属団体・役職名等	氏 名	分科会
鶴岡商工会議所 会頭	早 坂 剛	審議会会長(産業経済分科会)
鶴岡市婦人会連合会 会長	齋 藤 春 子	審議会副会長(地域コミュニティ分科会)
鶴岡市町内会連合会 会長	山 田 登	地域コミュニティ分科会長
鶴岡市農業協同組合 代表理事組合長	今 野 毅	産業経済分科会長
鶴岡市自治振興会連絡協議会 会長	本 間 仁 一	地域コミュニティ分科会
(社福)鶴岡市社会福祉協議会 理事	茅 野 進	
鶴岡市民生児童委員協議会連合会 会長	竹 内 峰 子	
鶴岡市PTA連合会 副会長	横 山 真 二	
NPO法人 鶴岡市体育協会 会長	稲 泉 眞 彦	
鶴岡市老人クラブ連合会 会長	後 藤 輝 夫	
鶴岡市消防団 団長	伊 藤 俊 昭	
学識経験者	竹 田 理 英	
学識経験者	菅 原 衛	
出羽庄内森林組合 理事	土 岐 純 一	
山形県漁業協同組合 常務理事	田 村 勇 次	
鶴岡市観光連盟 会長	三 浦 惇	
(公社)鶴岡青年会議所 副理事長	今 間 智 寛	
学識経験者	丸 山 絢 子	
学識経験者	菅 隆	
学識経験者	奥 山 春 名	

### 市 役 所

	氏 名	備考
企画部地域振興課長	阿 部 真 一	産業経済分科会
企画部地域振興課主査	三 浦 裕 美	地域コミュニティ分科会
企画部地域振興課専門員	前 田 哲 佳	産業経済分科会
企画部地域振興課主任	小 野 寺 善 紀	地域コミュニティ分科会
企画部地域振興課主事	富 樫 智 彦	地域コミュニティ分科会

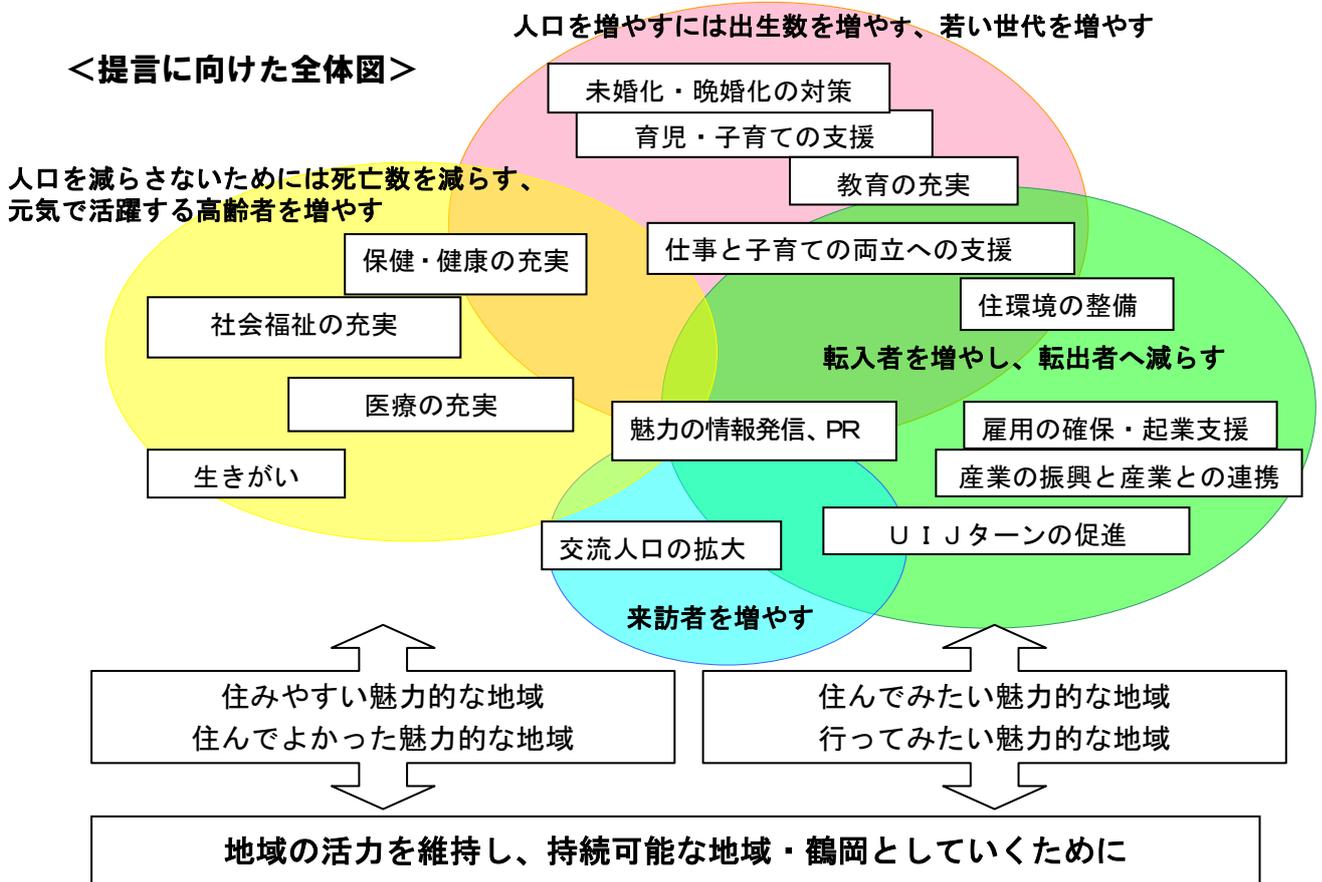
鶴岡地域審議会のこれまでの協議からと提言（案）の方針について

全国的に人口減少が進む中で、鶴岡においては、毎年1000人程度の人口が減少している。平成25年3月の国立社会保障・人口問題研究所の試算によると、2040年には94000人台まで減少すると推計されている。また、直近の総務省が発表した65歳以上の高齢者人口推計は3186万人で過去最多になり、総人口に占める割合の25.0%で4人に1人が高齢者となった。

このように人口減少の進行と少子高齢化の進行は、地域の担い手不足や地域のコミュニティ機能の停滞、労働力の減少によって地域経済の活力が低下するなど、地域社会に及ぼす影響は大きい。

鶴岡地域審議会では、「地域コミュニティ」と「産業経済」の2つ分野から、現状や課題を出し合っていく中で、やはり人口減少はコミュニティの問題にも、地域の産業経済の問題にも関わってくることから、「人口を減らさない。そして増やしていく」ことを、テーマに捉え人口減少に対応した取組みを考えることとし、地域コミュニティ分科会では、現在住んでいる者にとって「住みやすい」視点から、産業経済分科会では、これから住む人にとって「住んでみたい」視点から、そしてどちらにも「住み続けたい」視点も加えて、それぞれの分野から協議を進めてきた。

提言（案）の方針は、次の全体図に示した内容で、「魅力的な地域」キーワードに、地域の活力を維持し、持続可能な地域とするため、「人口をこれ以上減らさない」施策に取り組んでいくように、提言としてまとめていく



人口減少を抑える魅力あるまちづくり・地域づくり

地域コミュニティ分科会

鶴岡が住みよい 鶴岡に住み続けたいとさせる魅力ある地域づくり

若い世代や子育て世代にとって、魅力ある鶴岡

- ・未婚化、晩婚化の対策
- ・育児、子育ての支援
- ・小学校、中学校の教育内容の充実
- ・仕事と子育てが両立できる支援

高齢者が健康で元気で安心して暮らせる魅力ある鶴岡

- ・保健、医療の充実
- ・社会福祉の充実
- ・生きがい、生涯学習等の充実

町内会、自治会等が良く機能している地域コミュニティがある鶴岡

- ・住民のニーズに的確に対応できる体制づくり
- ・地域づくりへの若者の参画と担い手確保

子どもから大人まで誰にとっても安全・安心・快適な暮らしができる鶴岡

- ・災害に強い体制、防災

人口が増加する魅力あるまちづくり・地域づくり

産業経済分科会

鶴岡に住みたい 鶴岡に行ってみたい 定住・交流人口対策

雇用の確保・雇用の創出

- ・新しい産業、若者に魅力のある産業の創出
- ・起業支援
- ・若者、高齢者、女性の雇用機会の確保

産業振興

- ・農林水産業の振興と連携

教育環境の充実

住宅環境の整備

- ・住宅の取得、空き家の利活用

U I J ターンの促進

- ・魅力の情報発信、PR、宣伝、シティーセールス

交流人口の拡大

- ・着地型観光や体験観光などによる魅力発信

地域コミュニティ分科会・産業経済分科会

情報発信、鶴岡の魅力を発信 空き家の利活用 人材育成

## これまでの協議の視点と、提言内容に向けた具体的な解決策について

少子化・高齢化と人口減少、核家族化、ライフスタイルの多様化などにより、社会生活の基盤であるコミュニティの現状は昔と違ってきている。しかし、子どもから大人まで、どの世代にとっても、安心・安全に、人とのつながりをもって、いきいきと健やかに暮らすことが出来る地域であり続けることを目指して、コミュニティ・地域づくりを進める必要がある。

鶴岡が誇れる、外に対して魅力を発信できる地域となるための目玉となる取組みを、具体的に提案しながら地域づくりを検討する。

### 1. 町内会や住民会等が良く機能する体制づくり

住民同士のつながりが希薄化にある中でも、コミュニティ（単位自治組織）の大小によっても違うため、地域の実態にあった連携の構築について考えていく。

これまでも、様々な取組みがなされてはいるが、これからの地域づくりに必要な取組みや仕組みづくりを検討し、そして、「この地域に住んでよかった、この地域が暮らしやすい」と言える地域社会を構築していく方策を検討していく必要がある。

### 2. 子育てにやさしいまち～婚活活動と若い世代の鶴岡への定着～

鶴岡の人口も毎年 1000 人ずつ減少していく中で、高齢化社会を支えていく子ども達の育成や、若い世代をいかに増やしていくのかが非常に大事な問題である。

鶴岡の自然や人が優しいという環境が素晴らしい中で、若い世代が子どもを産み育てやすい環境、安心して子育てが出来るための、地域で出来ること、行政でなければ出来ないことなどについて考えていく。

子育ては保育環境の充実と、その後の小学校、中学校の教育の充実も鶴岡を選んでもらえる魅力にもなる。また、地元に残る、または地元に戻ってくるための人づくりとして、教育の面からも考えてみる。

### 3. 高齢者にやさしい魅力ある地域づくり

高齢化に対する対策は、各分野、各方面での対策はされているが、高齢者が元気に安心して暮らせるまちであれば、今住んでいる人にも、これから住んでみたいと考える人にも、住んでよかった、もっと住んでいたい地域になる。人が定着するための施策の一つにもなるのではないか。そのためには、何を前面に押し出しいくか考えていく。

高齢者が住みなれた地域で生活するための支援、交通対策、高齢者の働く場、生きがいづくりなどについても検討してみる。

### 4. 子どもから高齢者までが、安心に安全に暮らせる魅力ある地域づくり

人口減少の中にあっても、この鶴岡に住みたいというまちづくりの視点は大事にしていかなければならない。例えば、自主防災組織、消防団はあるが、さらに災害等に強いまちづくりや、誰でも安心して暮らせる地域づくりに必要な取組みを考えることで、地域の力が高まるなど、いろいろな視点から考えていく。

良い情報収集の仕方や、また情報の魅力的な発信について、具体的な事例を出し合って検討していく。

## 人口減少がもたらす地域やコミュニティ分野の現状や課題

- 1年間で1000人ぐらいつつ人口が減少していく中で、いかにして減少を食い止められるかが大きなテーマ
- 人口が減少することによって衰退するという認識がテーマにならないければ
- 働く場が確保できるか、確保するためにどうするかが、人口減少、少子化のあらゆるものの根本的な課題
- 人口減少の原因は魅力がないからで、魅力のあるところには人が集まる
- 人口が少なくなって大変なのではなく、その中で幸せな生活ができる取組みを明らかにしていく方法を考える
- 現在鶴岡に住んでいる人が、この地域に住んで良かったと思えるような地域をつくることが必要であり、鶴岡に住んで良かったことを前面に押し出す
- 鶴岡に引越してきた方からずっと鶴岡に住んでもらう、また鶴岡に住んでみたいという気持ちを起こさせるような鶴岡市をつくっていく
- 一世帯の家族数が非常に少なくなり個別化が進んでいる
- 子どもが少ない問題と超高齢化の二つの面がある。見守り支え合う活動が住みよいまちをつくるのではないか
- 郊外地では、市の中心部への移転による集落の空洞化、過疎化が進んでいる。
- 市街地でも空き家や空き地が多くなってきて、空洞化してきている

## 意見・提案等

- 人口減少を食い止めるための地域づくりを考えていく
- 鶴岡の魅力を全国的に知らせないと人は集まってこない。都会で快適な暮らしをしている人が、田舎に住みたいと思えるメリットや魅力ある地域をつくる必要がある
- 地域の特徴を活かした、またはこの地域だけ特別優位とかといった、特区をつくってみる
- 限られた財源、限られた人材の中で、どの課題に力を集中させるかを定めるべき
- 生活環境、買物環境を整えるため、中心市街地の道路などの整備
- 住みよい魅力あるまち鶴岡にするため、都市機能の充実強化と農山漁村地域の振興を図る必要がある
- 歩いて暮らせるまち、自転車で暮らせるまち、車椅子で暮らせるまちが住みやすいまちになるし、来訪者（交流人口）も増やせる
- 人材づくりと鶴岡の魅力の発信のため、全年代層を対象にした鶴岡アピール講座を試みる
- 地域づくりに、地域の大学生や社会人1年生など若い世代から入ってもらったり、話してもらおう
- 地域のことを皆で力を合わせて取り組むことで、次の世代につながる。つなぎ役も必要。自分たちだけ抱えこまない
- 一人の役員に仕事が過重にならないようにする
- 学区が違う町内会と連携した事業をすることで、新しい地域づくりができる
- 人口減少の中で、中学校区のエリアがコミュニティの新しい枠組みの可能性を持っている

地域コミュニティの機能を低下させないためにも、人口減少・人口流出を抑える

住んでいる人にとって、魅力あるまち・地域であれば、鶴岡に住みたい人の魅力となる

## 1. 町内会や住民会等が良く機能する体制づくり

### 現状と課題

- 町内会や自治会など地区によって名称も違うし、一括りにすることは、なかなかできない
- 世帯数が少なくなると町内会や自治会などの維持や、役員のなり手の確保が難しくなる。  
役員がいつも同じ人であると、同じ行事になってしまう
- 地域の中にある各団体の組織との連携をどう図ればいいのか。価値観の多様化や帰属意識も薄れてきており、地域の中の団体や組織の維持も難しくなっている
- 地区が小さいと人はいないが地域との関わりがある。学区は人は多いが地域に出てこない。地域の中で、一人でも二人でも、人と人とを繋げていけば変わってくるのではないか
- 地域で何かをする時に、リーダーやコーディネートを誰にするかをどう育てるか、立場をつくってあげるかが大事
- 隣近所の絆づくりをどうつくっていくかが、まちづくり・コミュニティの基本
- 地域をいかに良くしていくか、暮しやすい地域にしていくことがコミュニティの基本
- 地域の活性化を進めるには、どうあればよいか課題（※1の再掲）
- 地域づくりは、防災でも福祉でも何でもきっかけになる（※1の再掲）
- 住民同士の横の連携が大事。話し合いの場が少なくなっている

## 具体的な解決策として

### 住民や団体等ができることや活動の事例

- 町内会の役員について、役割分担をして、会長や副会長だけが業務を背負わないようにして、一人の役員に仕事が過重にならないようにする
- 地域の中にある団体や組織が一同に集まって、今後の運営について話し合っていくながら、共通理解を図っていく
- 地域の中にある諸団体や組織を一つにした新たなコミュニティを構築するのも、手立ての一つとして検討してみる
- 地域の行事など、役員だけで実施するのではなくて、住民皆を巻き込んで、実行委員会形式で実施してみる
- 地域の良さを確かめるために、楽しく年代を超えて協力するイベントを開催する
- 町内活動に地区担当職員制度の担当職員と連携する

### 課題解決に向けた意見・提案等

- 地域づくりに、地域の大学生や社会人1年生など若い世代から入ってもらったり、語ってもらう
- 地域のことを皆で力を合わせて取り組むことで、次の世代につながる。つなぎ役も必要なので、自分たちだけ抱えこまない
- 一人の役員に仕事が過重にならないようにする
- 学区が違う町内会と連携した事業をすることで、新しい地域づくりができる
- 人口が減少する中で、中学校区のエリアがコミュニティの新しい枠組みとしての可能性を持っている

## 2. 健やかに、生き生きとした家庭や世帯を増やすために、子育てにやさしいまち～婚活活動と若い世代の鶴岡への定着～

### 現状と課題

#### 【婚活】

- 人口減少を解消するには、子育ての支援より先に子どもを産んでもらうための施策が必要なのは。人口を増やすことを考えるべき
- 鶴岡市でも地域でも婚活事業をしている
- 市の婚活事業の成果が分からない。実施の方法が検証されていないのではないか
- 結婚すべき対象の年齢層が、結婚していないことが問題。その背景には、働く場や雇用が関係している
- 人口を増やすことを考えれば婚活支援。行政や自治会には安心感がある。市が後援の形で一緒に進めるのも一つ
- 婚活で成婚した実績を、ホームページなどで広く知らせる
- 民間レベルで小規模で頑張っているところがあるが、経費の面で厳しい場合もあるようだ
- 結婚できる環境をつくるには、若い世代が定着するための施策を出来る範囲でやるべき

#### 【子育て】

- 子どもを産むための施策、生まれた子どもを育てる施策、成長した子どもの教育への施策となっていくのでは
- 地元で若い人を定着させるには、仕事と住居の環境整備が必要
- 女性が子どもを育てながら仕事を続けていく中で、小学校に入るまでの間のことが充実されると、産み育てられる地域になっていくのではないかと
- 小さい子どもを育てる自然環境は良いが、保育料に格差があったり、住んでいる地域の保育園に入れない状況がある

#### 【教育】

- 核家族や一人親家庭など、子どもの育ち方が昔と違う中で、今まで伝承されてきたことが続かなくなっている
- 鶴岡の良さ、伝統、文化を子ども達の伝えていくためには、地域の大人の力が必要
- 城下町だったことから、教育については昔から高いレベルの教育があったし、致道館教育を大事にしている
- 昔は地域でいろいろ教えてくれることが多かったが、今はインターネットなどが普及し、使っていくうちに様々な問題はでてくるのではないかと
- 家族と一緒に暮らしたいという子育ても一つの方法。そうすることで、家を守りたいという気持ちが生まれてくるのではないかと
- 地域と一体になって子どもと関わるようなことがあってもいいのではないかと
- 小学校が統廃合されることで、地区の運動会をどうするかということが問題になっている
- 鶴岡の子どもは、子ども達のほうからあいさつをしてくれる

## 具体的な解決策

### 住民や団体等ができることや活動の事例

- 自治会主催の婚活イベントを実施している
- 一つの自治会だけでなく、複数の自治会が一緒になったの婚活イベントを実施している
- 同窓会や同級会といったものを、出会いの場として活用する
- 学校の先生の力を借りたりしながら、同窓会などを利用した婚活の実施
- 地域の中、周りで支えていくことも教育の一つ
- 廃校の校舎を利用した、若者の交流の居場所づくり

### 課題解決に向けた意見・提案等

- 同窓会は鶴岡に来るきっかけになるので、婚活の場に活用できたり、いろいろなイベントが実施できるように行政で支援する
- 市の婚活支援ネットワークへの登録数をもっと増やすべき。登録制度があることを知ってもらう、それにはもっとPRが必要。
- 結婚へ向けて背中を押すために、若い既婚者と未婚者との交流と学習の機会をつくるべき
- 人口が増えている自治体の事例、子育て支援などを参考にする
- 婚活も大切であるが、行政の子育て支援、働く場所、働きやすい環境づくりが必要
- 「日本一子育てしやすいまち」を目指す
- 企業と一緒に、女性が働きやすいまち、子育てしやすいまちにしていく
- 子どもが2人以上いる家庭に対しての子育てについては、手厚い公的援助や支援のサポート、システムをつくる
- 自然に親しむことや産業を見たり体験させたりしながら、地元を誇りを持つ若者を育てる
- 小学校の教育、中学校の教育をもっと頑張ってもらう
- 働くということを子ども達に教える
- 鶴岡にある先端研の研究や技術を生かした、若い世代の職場をつくる

### 3. 高齢者にやさしい魅力ある地域づくり

#### 現状と課題

##### 【生きがいをもって充実した生活ができる環境】

- 安心して子育て出来ることも大事だが、子育てもが終わったあと、ここでいかに安心して長生きできるか大事。
- 退職したらゆっくり静かに暮らせると思っていたが、次から次へといろいろな仕事が続いてきて、とても余裕がないのが今の年寄りの現実。
- 働いていた時以上に老後は大事だと感じる
- 健康で暮らすこと、スポーツやレクリエーションを通じて、元気で生活できることに取り組んでいかなければならないと思う
- 各世代間、その中には高齢者も一緒に入って連携こそが、組織の連携を図ることにつながる。相互が対等、平等であること大事
- 路線バスが廃止され、免許返納となれば、交通問題も関わってくる

##### 【地域の支援体制】

- 緊急の連絡先の届出を頼んでも、出してもらうことが難しくなっている
- 隣組単位での見守り活動と支援、隣近所で支えあうことがこれからの時代必要
- 近隣の支え合い活動はどうあればいいのか、どうすればいいのかが課題
- 高齢者世帯の一軒を隣近所三軒ぐらいでカバーするような複数の体制が必要
- 一人暮らしの高齢者には、災害の場合は声かけをして一緒に逃げることを目標に、隣組単位に福祉員を設けて、目配り気配りをしてもらっている。
- いざ何かあった時に連絡網で人を助けることを想定した場合、一人暮らしの高齢者は高齢者の名前があがる
- 高齢者の一人暮らしや家庭には、まだまだ手が伸びていないのが現実
- 要援護支援には、町内会長、民生児童委員、福祉協力員の三者の情報共有が大切
- 一人暮らしや二人暮らし、80歳以上の二人暮らしの方などに、非常時にどのような形なら、皆を救うことが出来るのか考えている

##### 【防災】

- 地域の自主防災で、消防団、町内会や自治会、婦人防火クラブなどが一緒になって、防災訓練を実施している。
- 防災に強いまちにしたいとなった時に、やはり人と人との関わりが大事
- 自主防災といっても、学区では自主防災組織が、郊外地では消防団活動がしっかり、している
- 訓練だけでなく、どういう災害があるは学習することも防災
- 防災といっても、災害が起きる前の取組み、災害が起きてからの取組みなど、いろいろな局面を考えると、範囲が広く膨大なテーマになってしまうのではいかと思う
- 水害やゲリラ豪雨の状況が、ニュースや口コミで知ることが多い(市のホームページを見ても載っていない)

## 具体的な解決策

### 住民や団体等ができることや活動の事例

- 高齢者が閉じこもりがちにならないように、毎月日にちを決めて訪問する活動に取り組む
- 町内会や自治会を開く時に、始まる前にストレッチをする
  
- 社協のモデル事業「おだがいさまのまちづくり」で、隣組単位での見守り活動と支援について取り組んでいる
- 一人暮らしの高齢者家庭、高齢者ではないが一人暮らしの家庭、体調不良者の見守りと目配りを目的とした福祉員制度を実施している。
- 福祉協力員を実施している
- 回覧版を回す時に必ず声かけをしている
- 行政と民間団体と福祉団体が一緒になってケアネットワーク推進会議という組織の仕組みづくりができた
- 見守り支援の情報交換会
- 社会福祉協議会や学区社協は、見守り支え合い活動として、福祉協力員制度を取り入れている。
- 福祉防災マップの作成と活用
- 福祉防災マップ作成には、市のボランティアセンターからの指導が受けられる
- 見守り安心カードを作成し、情報の共有化を図っている
- 見守り支援の情報を交換する場を設けている
- 防災福祉世帯票の作成と高齢者への配布、各家庭の構成が変わるので防災福祉世帯票は5年ごとに更新している

### 課題解決に向けた意見・提案等

- 高齢者が元気で活動できるように、コミセンなどを利用しながら、転倒防止などの運動など広げていく
- スポーツや軽スポーツ、歩くことなど取り入れる（それには町内会や住民会が大きな役割を持つ）
- 健康寿命日本一を目指す
- 高齢者が、地域社会のために活躍できる場や地域で上手に活用する（生きがいづくり）
  
- 緊急や水害などの災害の時に、各家庭に連絡できる方法や手段を考える仕組み

## 4. 子どもから高齢者までが、安心して安全に暮らせる魅力ある地域づくり

### 現状と課題

#### 【防災】 (3. 高齢者にやさしい魅力ある地域づくりの再掲)

- 地域の自主防災で、消防団、町内会や自治会、婦人防火クラブなどが一緒になって、防災訓練を実施している。
- 防災に強いまちにしたいとなった時に、やはり人と人との関わりが大事
- 自主防災といっても、学区では自主防災組織が、郊外地では消防団活動がしっかり、している
- 訓練だけでなく、どういう災害があるは学習することも防災
- 防災といっても、災害が起きる前の取組み、災害が起きてからの取組みなど、いろいろな局面を考えると、範囲が広く膨大なテーマになってしまうのではいかと思う
- 水害やゲリラ豪雨の状況が、ニュースや口コミで知ることが多い(市のホームページを見ても載っていない)

### 具体的な解決策

#### 住民や団体等ができることや活動の事例

- 何かあったらすぐ駆けつける防災連絡員をおいている
- 自治会で実施している火の用心活動
- 福祉防災マップの作成
- 防災福祉世帯票の作成と高齢者への配布、各家庭の構成が変わるので防災福祉世帯票は5年ごとに更新している

#### 課題解決に向けた意見・提案等

- 緊急や水害などの災害の時に、各家庭に連絡できる方法や手段を考える仕組み

#### 【安心・安全なまちづくり】具体的な解決策

- 住みよい魅力あるまち鶴岡にするため、都市機能の充実強化と農山漁村地域の振興を図る必要がある(再掲)
- 生活環境、買物環境を整えるため、中心市街地の道路などの整備(再掲)
- 歩いて暮らせるまち、自転車で暮らせるまち、車椅子で暮らせるまちが住みやすいまちになるし、来訪者(交流人口)も増やせる(再掲)

## 5. まちづくり、地域づくりに関して

### 現状と課題

#### 【空き家について】

- 郊外地では、市の中心部への移転による集落の空洞化、過疎化が進み それに伴い空き地、空き家の問題がある（※1の再掲）
- 市街地でも空き家や空き地が多くなってきて、空洞化してきている（※1の再掲）
- 空き家といっても個人の資産なので、危険や状態や蜂の巣があっても勝手に入ることができない
- 空き地をそのままにしても、現状はなかなか売れない

### 具体的な解決策

#### 住民や団体等ができることや活動の事例

○NPO法人「つるおかランドバンク」で空き家・空き地の有効活用を図っている

#### 課題解決に向けた意見・提案等

- 空き地を畑として利用する。地元の人に貸す
- 優良空き家について、市(自治体)には安心感があるので、積極的にPRや宣伝をする
- 廃校になった校舎を、宿泊施設としての利用すれば、外からの人を呼べる
- 空き家を格安で借りられるようにする。食も提供できればなおよいと考える

### 現状と課題

#### 【情報について】

- 緊急の連絡先の届出を頼んでも難しくなっている
- 月1回の市広報をカバーできる手立て
- 鶴岡市はPR、情報の進め方がもても遅い。情報の発信力がない

### 具体的な解決策

#### 課題解決に向けた意見・提案等

- 地域情報、組織情報の共有化
- 市や各課のHPを写真やイラストで見やすい仕様に
- インターネットの時代、子ども達はラインやフェイスブック使っている。これから先は、そういうツールも大切だと思う。情報発信を強くしていかなければならない
- 山形県のHPにはツイッターとフェイスブックがある。酒田市のHPにはフェイスブックがある。鶴岡市のHPにも載せたらどうか

## これまでの協議の視点と、提言内容に向けた具体的な解決策について

人口減少は、特に生産年齢人口（15歳～64歳）の減少は、地域経済を始めあらゆることに影響を及ぼしている。人口減少が進行する中、地域の活力を低下させないためには、定住、移住促進の施策の推進が、これからの地域社会の構築に必要不可欠であり、これ以上人口減らさない、そして鶴岡の人口を増やしていくために、各分野や各産業方面からの多角的な視点での方策を考える必要がある。

### 1. 定住に向けた 雇用の場の確保、産業の創出、起業支援、地場産業の後継者育成

農業・林業・漁業の第一次産業では後継者不足、高齢化という状況の中で、各産業が連携した取組みはあまりされていない。

定住人口を増やしていくには、雇用の場を確保し安定させていくが必要である。第一次産業が商業、工業、観光などと連携しながら、各産業が一体となった取組みや受け入れる体制を検討していく。

雇用の場を確保することはもちろん、新たな産業や雇用を創出するために、既存の産業を活用、各産業と「食」との活用など、各産業分野の中で体系付けていく

### 2. 定住に向けた 若者の定住やIターン、Uターン

定住促進のためのIターンやUターンにつながる仕組みづくりの検討や、住む場所の確保として空き家の利活用について考えてみる。

### 3. 定住に向けた 情報発信、PR、宣伝

地域を誇りに思う意識、この鶴岡の良さ、住みやすさ、子育てがしやすい環境にあることなど、魅力や強みを再確認にして特色を伸ばしていく。また、前面に押し出すことで定住人口の拡大につながる。

情報発信をする方法やアピールの仕方などの仕組みづくりを検討する

### 4. 定住に向けた 交流人口の拡大

この鶴岡にいかにか人を呼び込むかは、まず交流人口の拡大を図っていかなければならない。

体験をして終わりではなく、体験を通じた交流が次の交流などにつなげていく。

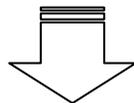
体験型観光、体験学習、体験就業など、鶴岡に住んでいない人への体験に関する仕組み、ネットワーク、各産業との連携や役割分担の構築を検討していく。

### 人口減少がもたらす現状や産業分野への課題

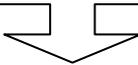
- 中央に集まった人口をいかに地方に分散させるか。地方のほうが働きやすく、住みやすい地域にしていくという目的を共有しながら、価値観を地方に分散させていく
- 生産年齢人口の20代、30代の人口をいかに増やすか
- 地元に対する良い感じはあまり持っていなかったと思われる人たちの、意識、価値観をいかに変えていくかが大事になってくる
- 働く場や官庁が東京に集中していることが問題
- 人口減少に伴い、産業やコミュニティが縮小し、活力を失うことが予想される
- 中山間地域においては、耕作放棄地が増加し集積が進まない。
- 農業、漁業の担い手不足、後継者不足、生産者の高齢化
- 様々な問題の根幹にあるのは、安定した職業、安心して暮らせる社会環境の整備
- 鶴岡の自然的、文化的、歴史的な強みをどう活かしていくか
- 市全体の約7割の森林資源を、今後いかに活用していくかが課題

### 解決に向けた意見・提案等

- 人口を増やしていくために、雇用の場がなければならないし、雇用をいかに安定させるかに取り組まなければならない
- 地場産業を様々な業種と結びつけながら、産業を活性化させていけば、人を呼び込む可能性が出てくる
- 産業と直結する部分で雇用、その雇用は定住化に結びつく
- 人口を増やすためには、定住してもらうこと、人口を減らさない方法が大きいテーマ
- 鶴岡地域の良さを再確認して、それを伸ばしながら定住人口を拡大していく
- 定住には、IターンやUターンにつながる仕組みづくり、情報発信、住む場所の確保が必要
- 交流人口の拡大が定住につながっていくので、体験をして終わりではなく、体験を通じた交流を次の交流などにつなげていく



**地域の経済や産業の活力を低下させないために、人口流出を抑えるとともに、人口を増やすため、外から「人」を呼び込むことが必要。**



**移住者・定住者の拡大に向けて**

## 産業経済分科会のこれまでの主な意見等

### 1. 定住に向けた 雇用の場の確保、産業の創出、起業支援、地場産業の後継者育成

#### 現状と課題

- 定住人口の増加のためには、農業、観光、工業に企業をはり付けながら、いかに働く場を安定的につくるかが課題。
- 地域の資源を産業として生かしていくための受け皿や、県外や内陸から農家や漁師になりたいという人たちの受け皿が課題
- 若い人が戻るためには、魅力のある仕事や産業が鶴岡にないと戻ってこない
- 農業が地場産業だということを多くの人に認識してもらい、六次産業化などと絡め、様々な業種と結びつけながら地場産業の活性化を図る
- 市全体の約7割を森林が占めており、今後いかにこの資源を活用していくかが課題
- 林業は製材業、搬出業、代替エネルギー関係など地域の大きな雇用の場になりうる
- 魚だけを獲る時代から、ヒラメやアワビなどの稚魚、稚貝の放流など「つくり育てる漁業」に変化している
- 観光は第一次産業から第三次産業に関連する裾野が広いので、様々な特色を活かしながら、どう結び付けていくかが課題。
- 各産業や産業構造、まちの構造をもう一度深掘りして見直し、産業に活かす。
- 農業や漁業や観光など、様々な産業が一体となって進めていく
- 今まで鶴岡に関わりを持っていなかった人を、Iターンに結びつける産業の新しい創出の仕方を、一つずつ作り上げていくことが必要
- コーディネートをする人材を育成することに雇用創出のお金を組み入れると、地域に埋もれている人材に光があたったり、Iターン・Uターンとして外に出た人がノウハウを持ち帰って戻ってくるのではないか
- 雇用を安定させるための、住みやすい地域、住みたくなる地域とは何か
- 子どもと生産人口年齢の人たちをどうやって増やしていくかが、将来に向けての課題
- 母親が子どもの近くで働くけるような働き方も大事ではないか。そのへんの就職支援やどのような仕事を増やしていくかということがある
- 雇用条件の確保と安定した職場をどう作り上げていくかがないと、若者が戻ってこなくなるので、そのためにはどうするか手立てを考えないといけない。

## 具体的な解決策

### 住民や団体等ができることや活動の事例

- 都会の人が鶴岡で農業をしたいといった場合、市と連携しながら、相談窓口を設定することが出来る
- それぞれの企業や団体での就業支援

### 課題解決に向けた意見・提案等

- 鶴岡の良さである食の部分や、逆に課題になっている部分を、産業に結びつけた新しい雇用創出や起業という形で事業を起こすことに結びつける
- 産業と直結する部分での雇用は定住化に結びつくので、既存の産業または資源を活かしていくことに焦点を当て、市の施策として雇用創出を進める
- 在来作物や食に目を向けて取り組んでいることを、皆が認識として、共有し文章にして発信して、雇用創出の一步につなげる
- 行政、民間、市民が一体となって進める受け入れ体制づくり
- 就業支援の整備をPRし、シティーセールスにつなげる
- 新規就業者をつなぎとめ育てていく、若い人が入りやすい環境にするため研修内容の充実
- 鶴岡は、就業の最初の段階で支援できる場所、商業なら商業、漁業なら漁業、農業なら農業という部分で、支援する体制が整っているので、他の地域よりいいということだと、UターンだけでなくIターンがくる
- 安定して働いていける、地域が支えていく、受け入れが出来ているという空気感を、きちんと見せていければいいのではないか
- 企業支援、商売したい時は商工会議所で、農業なら農協などといった部分を、きちんとパッケージとしてやっていくシステムがあるので、情報として伝える

## 2. 定住に向けた 若者の定住やIターン、Uターン

### 現状や課題

- 都会での暮らしが絶対ではない時代に突入している
- 働く世代、特に20代から30代位の人たちをどうやって増やすのか
- 地元の人が普通だと感じることを県外の人に伝えることや、鶴岡を体験してもらう場や機会を多くつくる
- 我々が当たり前だと思っていることが、他から来た人は全然違う視点で見ている。それは財産であり、その財産をいかに生かしていくかが課題
- 他の地域、都心部と比較して単に良いだけではなく、強みを持っていることや違いについて、もっと積極的に恐れずに出していく
- 外から来た人から、この地域の良さを言ってもらう。足りない部分は指摘してもらい改善して、受け入れる体制、受け皿を作ることが大事
- 農業や漁業や観光など、様々な産業が一体となって進めていく
- フェイスブックは、どこにいても情報がリアルタイムで得られるので、人を呼ぶ手段として上手く活用する
- 定住を考えている人たちに対して、ホームページで検索する時に、情報のキーワードが多ければ多いほど引っかかるので、情報を入れる方法やフェイスブックの活用方法を検討するべき
- 若い人から農作業をしてもらうことで、庄内の味を伝えていくことが出来る
- 行政、民間、市民が一体となって進める受け入れ体制づくりをしないと
- 移住したいという時に、鶴岡には何も資料はなかったし、相談窓口もなかった
- 空き家が多くなっている
- 次男の人達が帰って来たいが、なかなか家がないという話を聞く

## 具体的な解決策

### 住民や団体等ができることや活動の事例

- 知り合いや身近なところで、Uターン希望の話しがあったら、情報提供する
- 鶴岡に来たばかりの人と知り合いになったら仲良くなる。つながってられるように、県外出身者で作っているフェイスブックの仲間に入れる

### 課題解決に向けた意見・提案等

- 鶴岡の良さである食の部分、または課題になっている部分を、産業に結びつけての新しい雇用創出や、起業という形で事業を起こすことに結びつける。
- 産業と直結する部分での雇用は定住化に結びつくので、既存の産業または資源を活かしていくことに焦点を当て、市の施策として雇用創出を進める
- 在来作物や食に目を向けて取り組んでいることを、皆が認識を共有し文章にして発信することが、雇用創出の一步につながる。
- U I Jターン等で移住した人からアドバイザーになってもらう
- 中山間地域で、空き家があってリホームしながら農地もつくる人がいれば貸すとなれば、来る人がいる
- 鶴岡に若い人たちがくるだけではなく、子どもを産んで育ててることを含めて、そういった方々を、仕事をするという部分や就労形態で、題岡のアピールの仕方を考えれば、観光を含めて行ってみよう、住んでみようとなる。
- 移住や定住の対象者は、若者、子育て世代、リタイア世代で支援が違ってくる。若者には雇用の場。UターンやIターンの子育て世代には起業への支援。特に都心部から来るリタイア世代には特に積雪への対応が必要
- 実際に移住した人の声を直接訴える場があれば、移住をしようかなと考えている人には最初のきっかけになるし、インターネットが一番やりやすい
- 自分たちの生まれ育った環境しか知らないので、外にいた人の目線でこの地域はこうだということを、市と各団体が一体となって取り組み、目線に向ける機会をつくる必要がある。外から見た地域の職業を、若い人に職場説明会といった場面に結び付けていくような仕掛けが必要
- 空き家の活用として、山間部の住宅、住居だけでなく、市内の商店街の空きスペースも活用する部分も対象として、住居ではなくて職場の職ということでの活用ができるのではないか
- こちらに来た人達に対しての住宅の提供として、空き家がある程度直して売ったり貸したりするようなどころまで、民間のベースですることなのか分からないが、行政としてやっていかなければならないのでは

### 3. 定住に向けた 情報発信、PR、宣伝

#### 現状や課題

- 鶴岡をもっと広告、宣伝していく力が必要
- 自然や人とのつながりなどを発信できる場や方法がない
- フェイスブックは、どこにいても情報がリアルタイムで得られるので、人を呼ぶ手段として上手く活用する
- 外から来た人から、この地域の良さを言ってもらう。足りない部分は指摘してもらい改善して、受け入れる体制、受け皿を作ることが大事
- 鶴岡の良さが、海や山や里は魅力的なことが知られていない。アピールが出来ていない。地元の人が気づいていない
- 都会での暮らしが絶対ではない時代に突入している。
- 地元の人が普通だと感じることを県外の人に伝えることや、鶴岡を体験してもらう場や機会を多くつくる
- 我々が当たり前だと思っていることが、他から来た人は全然違う視点で見ている。それは財産であり、その財産をいかに生かしていくかが課題
- 他の地域、都心部と比較して単に良いだけではなく、強みを持っていることや違いについて、もっと積極的に恐れずに出していく。
- 移住している人の情報などをチラシにして発信する
- 鶴岡で、就業から、住む場所から、子育てから、こういうことが出来るというPRは非常に不足している

## 具体的な解決策

### 住民や団体等ができることや活動の事例

- いろいろな声を集めたものを、インターネットを発表の場として、サイトは市のサーバーを借りて発信する。いろんな形で移住、定住をした人間の声をまとめたものを、それぞれ出していくというのは、一人ひとりが出きる
- 誰かが一生懸命していることを、鶴岡市役所がやるのではなく、実際に移住した人達が、移住した目で意見を発せられる場があると、押し付けではないPRができる
- 移住者だけでなく、いろいろな場に集まった人たちの意見を、市のホームページを見ればということだけでなく、市民運動的にもっと前向きに発信していく。

### 課題解決に向けた意見・提案等

- 定住を考えている人たちが、ホームページで検索した時に、情報のキーワードが多ければ多いほど引っかかるので、情報を入れる方法やフェイスブックの活用方法を検討するべき。
- 実際に移住した人の声を直接訴える場があれば、移住をしようかなと考えている人には最初のきっかけになるし、インターネットが一番やりやすい
- いろいろと情報があるのはやはり市役所。それを上手く活用してやるべき
- 中山間地域に住みたい人への空き家の提供と活用
- あるものをそのまま出すのではなく、キャッチフレーズやキャラクター的なものも含めてつくり上げていけばブランドイメージも出来て、もっと売れるのでは。特に、都会に人に対して、心の隙間に入るようなブランドづくりみたいなものが必要
- 田舎暮らしの魅力、庄内の食の魅力を発信する

## 4. 定住に向けた 交流人口の拡大

### 現状や課題

- 地域産業を掘り起こしながら、体験観光としていかに育てていくかが大きな課題
- 都会の子ども達が農業体験することで、今度は親たちや子ども会などで再度訪れることにつながるので、体験をつなげる方法が必要
- 様々な産業と連携しながら、すばらしい自然や食を体験してもらう。そして魅力を引き出していく
- 鶴岡にはどんな産業でも食に関わっていて、携われたり見られたりすることは魅力に感じるのではないか
- 体験観光ツアーや創作的な体験メニューの充実。一つの体験だけではなく、農業も海も体験するなどストーリーを作り一つのツアーとして大きく考える
- 体験型観光や修学旅行が後につながるための情報発信、PRと受け入れ態勢の確立の両方で進めていかなければならない
- 体験にはコーディネーターの人が必要。それは、また来たいと思う要因になるが、そうするには演出が大事
- 若い人から農作業をしてもらうことで、庄内の味を伝えていくことが出来る
- 体験観光というので、仙台から中学校が来て、映画館で体験をしていった。農業や漁業でなくてもできる素材が、食を含めてある
- だだちゃ豆体験や、それからメロンの収穫体験などを観光ルートにのせて情報発信をしているが、受け入れ態勢をどうするかということを進めなければならない
- 美しい環境であるか。環境を整備しないと、ごみなどで汚れていけば人は来ない

## 具体的な解決策

### 住民や団体等ができることや活動の事例

- 自分たちの好きなところを案内するという「マイツアー」というような形で実施すれば、また鶴岡に来たいという方は必ず現れる
- 友人から去年花火を見に来てもらったが、話を聞いた別のグループが来る事になった

### 課題解決に向けた意見・提案等

- 鶴岡のアピールの仕方、これが観光を含めて行ってみようという部分で増える
- 農業や漁業も含めた体験だけでなく、俳句や読書をいった文化的な要素でも、こちらに来るきっかけになるので、コンセプトをはっきりさせる
- 地元ではなく都市の人の視点で企画する。海とは漁業であれば、船が入港して魚を水揚げする風景から、選別、箱詰めして市場に並べて競り落とすという市場の風景を、都市部の人達との交流の中で、魅力を発信できる

## <第 2 回 産業経済分科会の意見より>

### ▼人口減少

- 統計上で 2040 年には、13 万 6 千人から 9 万 4 千人台に減少する。自然減少と社会減少とあるが、どこで止めていくかが重要。
- 15 歳から 24 歳は学生が転出しているから落ち込みが大きい。25 歳以上は増え方が少ないのは就職が関係していると思うが、人が出て行くのを出来るだけ防いで、逆に増やしていく手立てをどうするか。今、どう増やすかということが中心になっているが、いた人間がいなくなるということを防ぎながら考えていくべき。
- 2040 年には人口が約 4 万人近く減る計算。合併した周辺がほぼなくなる状況。周辺はゼロにはならないが、旧市内を中心に寄ってくると思われる。鶴岡市内の人口はそんなに変わらないのでは。そうなった場合に商売としてどうなっていくのか。将来の産業構造も大胆に変わると思う。

### ▼地場産業、後継者

- 山に入ること、山に入れる環境をどう作るか。それから熊や猿などの鳥獣被害があるが、山に生息できる環境を整えてこなかったことが、要因の一つののだと思う。
- 山を若返らせるには間伐。今の山の木材をいかに活用するか。バイオマス話もあるので、住宅だけでない活用だけでなく、そういうか活用が出来ればと思う。
- おいしい水が飲めるのは山があるからで、このことに皆が感謝するには、もう少し山に足を運んだり関心を持つことが大事。山からお金を得ることが出来れば、人も山に行き、そして雇用も生まれる。全てにつながっていく。
- 地場産業の後継者の育成とあるが、農業のことだけなので、林業や漁業、伝統工芸の話もあるので、そのような視点も加える。逆に農業に絞った後継者育成で進めるというのもあるだろうが、これからまとめていく時に分科会のメンバーの所属団体等を考えれば、限定せずに鶴岡の地場産業は何かなど、出来る限り取り入れた表現にしたいと思う。
- 庄内には 130 種類もの水産物がある。地元ではなく都市の人の視点で、海とは漁業とはということで企画する。例えば、船が入港して魚を水揚げするといった風景は馴染みがないと思うので、漁師のお母さん達が選別し、箱詰めして市場に並べて競り落とす。競り落とした魚はスーパーにある魚と違って、目の輝きが全然違うので、そういう市場の風景を、都市部の人達との交流の中で、海は素晴らしいという魅力を発信できればと思っている。
- 三瀬海岸で「夜光虫を見る会」をしていたが、それも資源だと思う。子ども達がとても喜んでた。
- 水産業も農業と同じく食糧産業なので、庄内の魚をいかに食べてもらうかが一番。他県や内陸のほうから庄内に来てもらうということが、今までも取り組んできたが、これからも、もっと取り組まなければならないと思っている。それには、本物の魚

の美味しさを届けて、庄内に来たが美味しくなかった、冷凍のものだったということになると次に繋がらない。きちんとしたもの出すには、庄内全体で考えていかなければならない。

- 山形県で揚がる魚の半分が県外に流出していて、ほとんど内陸のほうでは消費されていないのが現実。内陸の旅館では、海のある県なのにどうして山形県の魚でないのかと観光客に言われるということで、何とか内陸のほうに庄内の魚を届けるように出来ないかという相談は受ける。

#### ▼移住・定住

- 移住や定住の対象者で、若者、子育て世代、リタイア世代とした場合で、それぞれに支援が違ってくる。若者は雇用の場があれば定住するし、昔から住んでいる若者にも雇用の場があることは大切。UターンやIターンの子育て世代なら、起業への支援。リタイア世代は、都心部で会社を定年された方、55歳ぐらいで早期退職される方も多い中で、リタイア世代が来ることも想定した支援として、特に積雪への対応が必要。資料の問題点、課題の中に冬場の対策がなかった。自分がこちらに来た時は暖冬で雪かきをしないですんだが、雪が降った時に足がなくて困ったこととか、一人で来た時などは困るということを思ったので、冬場でも生活が出来るという対応を現したい。

#### ▼情報発信、PR

- 実際に移住した人の声を直接訴える場があれば、移住をしようかなと考えている人には最初のきっかけになるし、インターネットが一番やりやすい。県外から来た人、若者で定住を選択した人、戻ってきた人など、いろいろな声を集めたものを、インターネットでの発表の場として、サイトは市のサーバーを使わせてもらいながら意見を発信する。いろんな形で移住、定住をした人間の声をまとめたものを、それぞれ出していくというのは、一人ひとりが出せること。鶴岡市の協力も必要というところで、きっかけを知る最初の第一歩としてやってもいいのではないかなと思う。
- 移住した人で、仕事で移住者や庄内での生活に視点をあてた書き物をして、サイトに載せていたりする人がいるが、誰かが一生懸命していることを、鶴岡市役所がやるのではなく、実際に移住した人達が、移住した目で意見を発せられる場があると、押し付けではないPRができるのではないかな。
- フェイスブックの話があったが、移住者だけでなく、今ここにいる人達の意見を集約する場とか、集まった人たちの意見をもっと前向きに発信していく。市のホームページを見ればということだけでなく、市民運動的な部分で。

#### ▼個人で出来る取り組み

- 鶴岡に来たばかりの人と知り合いになったら仲良くなる。今フェイスブックで県外出身者のグループを作って、たまに集まって情報交換しようといったような会をし

ている。外から来た人には心強いと思ので、県外から来た人がいればフェイスブックの仲間に入れる。

- 誰かを1泊でも2泊でも、自宅でも近くの旅館でもいいので、自分たちの好きなところを案内するという「マイツアー」というような形で実施すれば、また鶴岡に来たいという方は必ず現れる。そこで、良いツアーを考えて実行した方に、賞とか何かをやれば面白いと思う。役所やどこかでするのではなく、鶴岡の人が自分達で鶴岡に来てもらう機会をつくり、広げることも良いのではないか。実際に今年の7月に、東京にいた時の絵画教室で教えていた生徒さん4名から、周辺の観光と絵を描くことを設定したプログラムを自分でつくり、「パステル庄内ツアー」という名前で鶴岡に来てもらった。すごく良い反応で、次回は自分達で車を借りていろいろ回りたいし、来年また来ると言っていた。一番は来てもらうことが大事。

#### ▼団体や組織で出来る取り組み

- 集落に加工グループがあり、農産物関係を真空パックで、主に笹巻きとおかゆをしているが、産直などで売っている。真空パックの機械に制限があり何でもとはいかないが、年配の方の憩いの場や情報交換の場として、楽しみごとの一つとして私は考えている。

#### ▼雇用、就業状況

- 高専であれば大学に行くという人はいるが就職組が多い。就職する人はみな鶴岡から出たいと言う。それは企業が県外にあるからだと思う。地元就職については去年の就職先を見ても少なかった。
- 就職は条件や自分の考えもあるが、地元の企業といっても、以前からある地元の企業と、県外から移設してきた企業もあるが、そういう企業でさえも、高専の学生からは目を向けてもらえないという話を聞く。それから、高専だと短大の意味合いもあり、大学に2年間進学という人達もいる。高校生も進学が多い。学校の方針なのか、就職のことを考えてのことか分からないが、県外に目が向いている。
- 四大卒の女子学生がこちらに帰ってきての地元就職が多くなると、高校生たちの職場少なくなる傾向になる。地元の子どもの就職が少なくならないように、鶴岡田川で就職祭りとして、就職して1年から3年くらいの社員から体験発表してもらっている。とてもいい影響がある。
- 自分たちの生まれ育った環境しか知らないから、外にいた人の目線だから、この地域はこうだということを、市と各団体が一体となって取り組んでいって、目線を向ける機会をつくる必要がある。外から見た地域の職業を、若い人に職場説明会といった場面で、複合的に結び付けていくような仕掛けは必要。
- 22年度の一人当たりの市民所得でみると、鶴岡は237万円弱で県と比較して96.5パーセン。とにかく今、年収200万円とか300万円と言われていて、これは結婚問題にも関係してくる。雇用の流動化は別として、非正規社員という状況

がある。雇用条件の確保と安定した職場をどう作り上げていくかがないと、若者が戻ってこないとなるので、そのためにはどうするか手立てを考えないと。

### ▼空き家の活用

- 山間部に限定された活用が多いが、空き家の活用は、山間部の住宅、住居だけでなく、例えば、市内の商店街の空きスペースも活用する部分も対象として、山間部であれば住みたい人や、住めるような場所として活用があるし、銀座通り商店街のようなところは、衣食住、住居ではなくて職場のほうの職ということでの活用ができるのではと感じている。
- 次男の人達が帰って来たいが、なかなか家がないという話を聞いて、次男の人達も含めた、こちらに来た人達に対しての住宅の提供ということ、空き家がある程度直して売ったり貸したりするようなところまで、民間のベースでやることなのか分からないが、これから行政としてやっていかなければならないと思う。
- 長男でも実家近くに家を建てるとか、別に家を構えるということもあるので、空き家の問題も、今の次男の方達を含めた方向へのアプローチもあるかも知れない。
- 朝日のほうだが、転居した後の空き家がぼつぼつとあったのを見て、登録制度のようにして遊休農地の利用と、空き家と一元管理して紹介する。
- 中山間地域から移転した人が住むというのは確率的に低いと思うが、田川や豊浦といったところには別の魅力がある地域だと思う。田川、豊浦、それから上郷などの2つ3つのところを、農業でない部分で考えてもいいのでは。

### ▼子育て、教育、学校

- 子育ても含めての地域としての良さは何か。子育てについて、IターンやUターンした方は良いつて言っていたが、子育てに関してのこの地域の教育環境はどうか。
- 住んでいる地域の学校が来年から統合になる、せっかくの良い場所がなくなってしまう。子どもが少ないと先生も少なくなるが、小人数でやれる良さ、少人数の環境の中で出来る勉強があるので、企画して提案してやれる人がいれば、もっと良い場所になると思う。東京辺りでは、わざわざ来て住んで、環境の良い学校に通わせたいという方も多い。
- 一昨日、テレビで加茂小学校の遠泳のニュースが出ていた。昔から毎年やっている。海のある小学校でしかできないこと。親子と一緒に一生懸命泳ぐ。そういった記憶がすごく良い。これはマンモス校では出来ないこと。

### ▼他の自治体の事例や取組みから

- 篠山市での古民家をリフォームするやり方も面白いと思う。行政も含めてこんな事が出来るのではないかを考える。例えば、大きな道路を作るだけでなく、裏道には何があるかを知って道路を作っていくことも考えないといけないと思う
- 千葉県流山市の取組みで、流山市はつくばエクスプレスの沿線上にあり通勤に便利。

また緑が多く環境が良いので、保育や教育をセールスポイントにしている。小学校で外国人を入れての授業、中学校全校にALTを配置。これからは、一人暮らしになった高齢者が集合住宅みたいなところに入居して、空き家になったら、リフォームして若い世帯に賃貸することをしていきたいなど、いろいろあった。

- 福島県磐梯町の十何人の小学校を見学したが、雪の多いところだが親に送り迎えを絶対にさせないで、子供達だけで歩いて通学する。先生と親が協力し合っって子ども達を見守る。若者子育て住宅をつくり入居者を募集していたり、学校だけでなく、住宅まで考えてトータルにやるような仕組みは大事なのではないか。

### ▼鶴岡の魅力 シティセールス

- 何を食べても美味しいと、ほとんどの人は特に都会の人は言う。食べ物だけでなく、山、伝統的な職業。空き家のことも、どこに点在していてどういう状態なのかとか、リフォーム可能なのかなど整理して、プロモーションを考えていく。
- 鶴岡の魅力とは何か、食のことだけでなく、何をシティセールスするかという部分で、それぞれの立場となると非常に難しいが、名所旧跡だけで魅力はないので、いろいろな分野を取り入れて考えていく。

### ▼交流人口

- 友人から去年花火を見てもらったが、話しを聞いた別のグループが来る事になった。
- 友人が所属する俳句の会が、40人位で鶴岡に来て、バスで湯殿山、象潟の蛸満寺、大山の下池、鶴岡公園の周辺など、あちらこちらを巡りながら、俳句を作ったり絵を描いたりする。バスの中では一生懸命考えるからガイドはいらない。あくまでも個人的な会だが創作をするツアーをしている。別の友人は、読書の会を鶴岡に来てやってみたいとか、最近は旅行の形態が変わってきている。
- 湯殿山で奥の細道全国俳句大会で、選者の人について東京から何人も来る。9月になると羽黒山で芭蕉の関係があるが、それも東京からの選者が来るので何人もついてくると思う。いい交流人口になる。
- 最近は鳥海山、湯殿山、それから六十里越街道といったトレッキングが多い。
- ただ見て回るだけではなく、自分達が創作する部分が入っている、芸術文化的な要素を含んだツアーみたいなものは、コンセプトがはっきりしていていいと思う。
- 適合する素材をピックアップする傾向がある。

**様々なものをどうやって活かしていくのか。無いものをねだるのではなく、あるものを活かす。それぞれの団体や立場でいろいろな話があった。様々な仕掛けを提案することを行う。**

## <第2回 地域コミュニティ分科会の意見より>

### ▼人口減少と少子高齢化

- 根本になる鶴岡のまちづくりという大きいテーマが抜けていると思う。それぞれの、諸団体がしていること、自分の専門の話しをしても、まとまりは非常に難しいだろうと思う。鶴岡は人口が減少することによって衰退するという認識が、テーマにならなければならないと思う。
- 人口減少を食い止めるには、鶴岡に住みたいと鶴岡に新たに引っ越してきたいというような人、一端鶴岡の人になったら、鶴岡から移動しないで、ずっと鶴岡に生活する。あるいは、これから鶴岡のほうに住んでみたいといく気持ちを起こさせるような、そういう鶴岡市を作っていくには、どうすればいいのかというようなことが、大きいテーマになるのではないか。
- 一番考えなければならないことは、5年後、10年後、20年後、30年後、あるいは50年後に我々の子ども達が、どうなっているのかということを見ると、人口の減少をいかに食い止めるか、できれば、人口増にどう持っていくかということの基本にして、そこから考えていく。
- 人口の問題を補強するために地域づくりや人口増をどうするかが課題。
- 人口減少をいかに食い止めるか、あるいは、できれば増やすためには、市は前面にお金をかける。働く場を庄内には確保するとか、客を呼ぶとか、そういういくつかの柱立てをして、その上に全部合わせていくというやり方がベストだと思う。
- お互いに来ること手伝う。人口問題でも、婚活でも、役所が、民間やNPO法人と一緒になってやっていく。

### ▼地域づくり（地域をつくる）

- 現在住んでいる人たちが誇りに思い「良い所ですから来て下さい」と他所にも声を掛けるような地域をつくる。この地域に住んでいて良かったと思えるようなものをつくるのがまず基本だと思う。
- 人口減少を食い止めるという大きいテーマの基にその地域づくりを図る。そのための地域づくりで、一人の役員に仕が過重にならないように分担をすとか、それから地域の中には、いろいろ組織があるが、その組織の代表の人たちなどが集まって共通理解を図っていく。
- 地域づくりは、自分たちの損得などでやっているのではないので、地域の活性化のためだということで、皆から考えてもらうきっかけにしなければならないと思う。
- 地域おこし、地域づくりを、各地域で前向きでやっている人がいるが、一部の人が動くのではなく、地域全体みんなで、取り組みを考えてやってみないかということが、これからの地域おこしなのでは。
- 地域づくりでは、山大生や公益大生などの大学生といった若い人が、地域に入り込んでくれるといいかと思う。

- 今住んでいるまちが役員も町内会組織も静寂して、元気がなくなっている。自分たちのまちを今どうすれば良いかということで、良いまちをつくれれば孫も育つし、親が自分のまちはこうだと、もっと幅の広い考え方で町づくりができるのではないか。人口は子どもから高齢者まで。支え合っていくまちにすれば、素晴らしいまちになると思う。
- 鶴岡の子ども達はすれ違う前から、にこにことして、こんにちは、おはようございますと言うが、こういう地域はめずらしいと言われる。鶴岡は、教育そのものが他と違っているからだと思う。そういう意味でここは残るべきまちで誇るべきまちだと思う。
- 地域のなかにある団体の再編成をして、一つのまとまりのある団体をつくって維持していくというのも一つの方法かと思っている。
- 学区地区の自治振興会と地区社協の連携をして、もっと統合体をつくり、傘下の諸団体の各年代層が活躍できるようにする。
- PRをしないと他の地域の方はわからない。情報の集め方というのもある。
- 鶴岡は、どんな魅力があるのかないのかというのを、全国的に知らせないと人は集まって来ないと思う。
- 地域の私たちの生活がどれだけ快適に、自分の力でどれだけやれるか、自分達で何をどうすればから始めないと。自分自身がどれだけ地域を大事に考えているかからやっていく。

#### ▼住みやすい地域をつくる

- 自転車で暮らせる、歩いて暮らせる、車椅子で暮らせるといったまちづくりをする。部分的な歩道から道路に移ると何かだと、車椅子では上がれないといったことのないような、住みよいまちをつくる。
- できる事とできない事があると思うので、皆が取り組もうとした時に、皆で力を合わせてやっていく。自分達だけで抱えては進まないの、世代をきちんと繋いでいくという事は一番大事。

#### ▼子育てしやすいまち

- 日本一子育てしやすいまちだという目標を掲げる。このためには市民だけでなく、企業からも協力してもらわないといけない。
- 女性が働きやすい共稼ぎしやすい環境をつくる。時短やフレックスタイム制、育児時間、病児保育といったシステムを徹底する。2人目からサポートするには、保育所の定員を増やすとか、2人以上いる子供の家庭への保育の受付は優先する、例えば、職場に近いとか、自宅に近いとかといった受付をする。それから、2人目から保育料を無料にするといったシステムにする。学童保育も考えてみる。
- 地元を誇りもつ若者を育てる。骨子になっている致道館教育を大事にして、自然と親しむとか産業を見せるといった体験学習をする。働くということをきちんと子ども

もに教えていないと思う。

#### ▼教育

- 若者というと教育が関わってくる。教育については、大学だけでなく小学校から将来を満たして充実した教育を推選していただきたいという願いが鶴岡市民にはかなりあると思う。町内会の集まりの中でも、小学校の教育、中学校の教育を、もっと頑張ってもらいたいという声もある。

#### ▼高齢者に優しいまち、安心して暮らせるまち

- この前水害があったが、ロコミやテレビニュースで知った。市のホームページを見ても載っていない。市のホームページの一番最初に「市が今このような状態だと」分かればよいと思う。災害ダイヤルでは教えてもらえるので、インターネットと電話の両方の部分で、これから先にいかに安心して暮らせるまち、特に災害やゲリラ豪雨が来るといった時など両方でカバーするというところに行政には頑張ってもらいたい。
- 高齢者が病気にならないように、介護保険をあまり使わないように、にこふるなど様々なところで体操などやっているので、NPO法人や地域で、コミセンなどを利用しながら、今、転倒防止のサークル等やっているとところ多いので、広げていけたらいいのではないかな。
- 福祉関係の施設をつくったり、お金かけるのもいいし悪くはないが、健康寿命日本一を目指すというタイトルで取り組んでいく。町内会を開いたら、必ず始める前にストレッチするなどして、各町には体育指導員がいるので、こういう人達を使いながら、とにかく体を動かすということをやっていくという特化したやり方をしなければ問題は解決していかないと思う。
- 高齢者が体が弱ってくると見守り的な制度も必要だが、高齢者を活かしていくような地域づくり、そういう場をつくっていくということもこれからは考えていかなければならないのではないかな。
- 市社協のモデル事業をした中で、友達、お茶飲みの人などの名前などを記入してもらってアンケート調査を、日中一人暮らしの高齢者世帯全てに実施してみて、いざという時に連絡網で人を助けるというシステムを動かしてみたが、70代で70代超えの人が友達で、いざという時に助けてもらおうというのがあり、本当に駆けつけられるかと少し不安を覚えた。向こう3軒両隣の中で補助していかないと、いざという時には助けにはならないような気がする。
- 三瀬は交通の便が悪く、高齢者の方々がなかなか買物や医者に行くという手立てがない方々が多いので、市の社協と話し合っ、おだがいさまのまちづくりを、これからはずっと継続してやっていこうと話しをしている。自分達で出来る事は自分達で、高齢者の一人暮らしに対するサポートを充実させていこうと話している。
- まだまだ高齢者の一人暮らし、家庭には手が伸びていなかったことが現実的に分かっ

てきているので、具体的なものを進めていこうと思う。

- 高齢者については、この間の大雨の影響で水が浸かったとなった時も、近くの間がわかれば、いろいろ情報交換できるのではないかとということもあるので、緊急や災害等の連絡方法、各家庭に連絡できるような方法手段を考えた方がいいのではないかな。
- 福祉員制度については、高齢者に優しいまちづくりという観点から進めているが、各家庭も5年もすれば構成も変化する。いつまでも同じ状況ではないということも福祉員は把握しておく必要があるだろうということで、今年5年目になるので2回目になるが、災害福祉世帯表をつくっているのでも書き換えをする予定で今進めている。病気、急病、交通事故という、いざという場合に、一番最初に連絡してもらいたい人の住所や電話番号を記入してもらおうという形で、プライバシーもあるので、自治会で保管して、緊急の場合はすぐに連絡するという制度で、準備をしている。

### ▼婚活

- 今鶴岡市では地域振興課で婚活事業をしているが、支援ネットワークの応援団体や登録団体の登録数が少ないと思う。鶴岡には、多くの業者があるので、100社ぐらいの登録を目指すべき。これには、もっとPRしていくべき。
- 婚活をしても、結婚したり子どもが増えるとは思わないが、やらないよりはやったほうはいい。
- 同窓会をきっかけに、いろいろなイベントを仕掛けたり助成をしたり、行政で舵取りをして、同窓会というのは年齢と共に経ていくが、なくなりほしくないのでも、平等に皆さんがこちらに来るきっかけだと思ふ。同窓会、同級会は大変良いツールできっかけだと思ふ。
- 一つの自治会だけで婚活をやっても限りがあるし、その地域の若い方々がなかなか集まらないという傾向にあるようなので、自治会がまとまって婚活イベントを行う。昔は世話焼きの爺さん婆さんがいて、それが普通だったのですが、それと同じような形で自治会を捉えてもらえたら思っている。

### ▼若い世代の鶴岡への定着

- 子どものうちから、将来は結婚するのでも、家庭をつくるのでもという意識を持たせないとだめだと思ふので、解決のためには、若い世代の人たちを、鶴岡にいかにか定着させるかということが、非常に大事だと思ふ。
- 鶴岡は、自動車に貼ってあるステッカーのようなものから、のぼり、手ぬぐい、鉢巻でも、そういうもので、市民にアピールして、全国的に若い人を迎えるまちだということをやっていく。

### ▼情報発信

- 鶴岡市はPR、情報の進め方がもても遅い。情報の発信力がない。広報も月1回に

なり内容が薄い。読んでないという人もいるので、そのバックアップを。今の子ども達はインターネット。ラインやフェイスブック使っている。子どもが使えるものが大人が使えない。これから先は、そういうツールも大切だと思う。情報発信を強くしていかなければならない。

#### ▼空き家

- 空き家の問題については、優良な空き家は再度利用して、よそから移住してきてもらう。
- 一人暮らしがこれだけ多いと近い将来、空き家をどうするかということも自治会等と話し合っていないと、どうにもならない時代がもう目の前に来ている。
- 年々、空き家のほうが多くなってきているということで、沖縄あたりでは、家を借りるのも例えば何千円とかで借りられる。人を集める手立てとして格安で貸してしまい、なおかつ食を提供するといったような方法で、人を集める方法を考えたほうがいいのかと思う。
- 朝日町では非常に活発に、空き家を埋めるような形で、かなり効果が上がっているという話を聞いたので、参考にして進めて欲しい。要するにもっと外部から、若い人はインターネット知るといのが主流。それに応えられるような方法で鶴岡市でもどんどん発信するべき。IターンUターンの3名の方の話を聞いて、やはり鶴岡市は情報発信が足りないと思うし、アクセスすればすぐ分かる形に是非して欲しい。
- 廃校の学校の校舎利用で、校舎を壊して宅地にするのではなく、例えば温泉施設にして泊まれるようにするとか、人を集めるように何か格安で泊まれるように、観光として利用するのも一つの手なのかなと思う。例えば、学校にして、美味しい料理がでて、温泉に入れて、先生が起こしに来るような、何か利用価値がある、地域ならではのものがあれば一度行ってみたいと思うのではないかな。
- 年々空き家が多くなってきているということだが、沖縄あたりだと、例えば、空き家を何千円とかで借りられる。格安で貸して、なおかつ食を提供するといったような、人を集める方法を考える。

**鶴岡の将来を考えると、人口が減るということは大変なことで、これが一つ大きい課題であった。もう一つは、住みたい鶴岡、住んでよかったという、これはお年寄りから子どもまで、皆が思えるまちにしていくということで、話し合いを進めていきたいということであった。今後も話し合いの核にしていく。**